

第2回 WWF「八重島諸島体験エコツアー」レポート

文責: 今井修之

10月23日、7人の参加者の皆さんが石垣島に降り立ちました。今回は昨年実施の第1回に続き石垣島・西表島の八重山二島を巡る旅。石垣島では白保のサンゴ礁保護、西表島では500年続く伝統行事・節祭(シチ)を体験します。

【1日目】WWF サンゴ礁保護研究センター“しらほサンゴ村” & 赤土流失防止月桃植樹

石垣島に到着後民宿たあずくやさんに荷をおろし、すぐに WWF サンゴ礁保護研究センター“しらほサンゴ村”に向かいました。センター長の上村さんをはじめスタッフのみなさんが出迎えてくれました。その後全員が参加への想いなどを含め自己紹介をし、多様な参加者の皆さんが集まっていることにワクワクしました。

簡単なレクチャーの後、農地へ移動し赤土流失防止の対策として月桃の植樹を行いました。二人でペアになり作業を始めました。この日石垣の最高気温は29℃、日差しも強く体力等も心配されましたが、現地の人も驚く早さで300株を植えきってしまいました。

終了後アイスキャンデーをいただき、作業後の火照った体をおいしく冷やしてくれました。地元メディアが数社詰め掛けており、参加者のみなさんはアイスキャンデーを頬張りながらいくつもの取材をこなしていました(笑)

石垣経済新聞 <http://ishigaki.keizai.biz/headline/401/>

やいまねっと http://jaima.net/modules/x_movie/x_movie_view.php?cid=2&lid=211

【2日目】美しいサンゴの海

午前中、しらほサンゴ村でサンゴに関するレクチャー。サンゴに関する様々なクイズに答えながら理解を深めていきました。質疑応答も活発に行われ、日頃からの関心の深さが伺えました。

午後はいよいよ世界最大級を誇るアオサンゴの群落ヘシュノーケリングで分け入ります。

天気は快晴。絶好のシュノーケリング日和です。参加者の中にはベテランの方もいらっしゃいましたが、事前に浜辺でシュノーケリングの練習を行いました。その後船でポイントまで移動し、サンゴを傷つけないよう細心の注意を払いながら、サンゴ礁が育む多様な海の姿を観察しました。黄色のユビエダサンゴが群生しているところは、風の谷のナウシカの金色の草原のよう。「わぁ」と皆さん歓声をあげていました。「この美しいサンゴの海を守っていかねばならない」という思いをみなさん強くされたようです。

夜は、三線(さんしん: 沖縄三味線)、沖縄舞踊の踊り手さんを囲んでの懇親会。地元スタッフのみなさんも駆けつけてくださり、オリオンビールや泡盛を酌み交わしつつ、楽しい白保の夜を満喫しました。

【3日目】石垣昭子さんの紅露工房

当初は石垣島でフリーの時間を設け西表島に移動の予定でしたが、参加者の皆さんの判断で早め

に西表島に移動しました。石垣島離島棧橋から上原港まで、高速艇で40分の移動でしたが、これが揺れる、揺れる。事前に聞いてはいましたが、西表の内海に入るまではず〜っとジェットコースターに乗っているかのようでした。

ちなみに、この時期は季節の変わり目。新北風(ミーニシ)が吹き始める時期で、これが吹き始めると秋の訪れ。秋から冬にかけては新北風が吹き荒れ、島南部の大原港にしか船は着けなくなるようです。

到着後すぐに西表アイランドホテルにチェックイン。昼食を済ませ、偶然行われていた世界各地の自然保護地域の活動紹介のシンポジウムを聞きに行きました。

その後、映画「ガイアシンフォニー5番」でも紹介された石垣昭子さんの「紅露(クールー)工房」を訪ねました。人あるところに「布ありき」古代からの人間の習わしなのに現代人は真っ先に「手わざ」を捨ててしまいました、と石垣昭子さん。

紅露工房では西表の素材(糸芭蕉・皮芭蕉・蚕・紅露・福木・山桃 他)を活用した伝統の布づくりを試作しながら発表を続けています。第1回ではワークショップを行いました。は翌日からの節祭の準備で忙しく貴重なお時間を割いていただきお話しを伺うことが出来ました。

【4日目】フリータイム;ピナイサーラの滝ツアー／バラス&鳩間島シュノーケリング

サンゴが体積して出来たバラス島にぜひとも行ってみたいということで女性1名がシュノーケリングに向かいました。当初、午前中にバラス島だけ行って帰って来る予定でしたが、白保とはまた趣きの違うきれいな海に触発され、鳩間島まで足を伸ばしてしまおうということになりました。

鳩間島はドラマ「瑠璃の島」の撮影地として有名になった島。昼食を食べに立ち寄ったカフェは俳優・スタッフの方の休憩場所になっていたそうです。

ピナイサーラの滝ツアーには6名の方が参加です。マングローブの川をカヤックとトレッキング廻ります。高さが2mにもなる板根を持つサキシマスオウノキや翌日のお弁当に出たオオタニワタリ、生き物ではミナミトビハゼやトカゲなど、目にしたものの全てに質問が飛び交い、予定の時間を大幅にオーバーするほどでした。

ガイドしていただいたタイドラインの大滝さんが昼ごはんにてご飯を炊き上げてくれました。そのタコはなんと前日大滝さん自身が海で取っていたものとのことで、美味しさに舌鼓を打ちました。

今日は節祭の初日「トウシヌユー」(年の夜)。1年納めの日。公民館では夕刻から明日の「ユークイ」で奉納するために1ヶ月掛けて準備して来た歌や舞などの最終リハーサルが行われ、数名の参加者がそれを見学しました。

【5日目】シチ2日目「ユークイ」

節祭(シチ)は祖納の村人にとってもっとも大きな神行事で、この祭りは村人の生き甲斐でもあるそうです。それゆえに「親兄弟の葬儀ですら祭りの後に行うというほどかけがえのない行事」とのこと。一年の区切りと新年の豊饒祈願が連続しておこなわれる商業化されていない祭祀です。

2日目の今日は祭りが最高潮に達する日。地元の皆さんと共に、参加者それぞれの楽しみ方で朝か

ら1日ゆっくりと楽しませていただきました。

みるく様の誕生から行列を見物し、棧敷へ移動し次々と繰り広げられる舞いや船漕ぎなどを地元の食材を使ったお弁当食べながら観賞しました。棧敷には西表島の他の集落から見に来ているおじい、おばあも多く、舞や言葉の意味などを解説してくれたりもしました。

ある参加者からは「ゆっくりとした島時間を感じた」とコメントが聞かれました。

【旅の終わりに】

今回は7名という少人数でのツアーだった為、ちょっとした時間の活用などフレキシブルな対応ができました。また、日頃から「自然保護」に深い関心を持たれているみなさんであったから、年齢も背景も幅広い方々がすぐに打ち解けられ気持ちの良いツアーになったのではないかと思います。ありがとうございました。

また、今回は西表島の最古の集落に500年続くとされている節祭(シチ)を見て、人や自然との係わりの原点を感じ、私自身普段の生活を省みる機会となりました。

参加者の皆さんがそれぞれお感じになられたことが、毎日の生活に活かされれば幸いです。